

■日柳燕石 勤皇博徒の代表。優れた漢詩人で博徒の顔役として、権力に抗したが、官軍に従軍し、陣中病没した。

くさなぎえんせき

杉田玄白没・1817＝ 讃岐国の金比羅社領榎井村で、豪農で質屋兼地主(加島屋)惣兵衛の子に生まれる。本名加島屋長次郎。

水野忠成老中1818＝ 1歳：

裕福な家庭ながら、4人の兄姉がいずれも夭折したため、母の期待を一身に背負って育ち、

シボト 小鳴滝塾1824＝ 7歳：母の実家の兄で儒学者の石崎青崗に入門させられ、

・・・・・・1826＝ 9歳：

四書五経を読破するほど、勉学に励み、

富嶽三十六景1831＝14歳：青崗の勧めで、榎井村隣の金比羅の儒学者三井雪航に入門して詩文を学び、その才を発揮して行くうち、

高島砲術・・1834＝17歳：_宇多津・坂出で起きた一揆が波及し、榎井村ほか金比羅社領の打毀しに発展すると、持ち前の義侠心を発揮したのか、その首謀の一人として逮捕され、心身過労して出獄すると、母から気晴らしにと勧められた花街遊びにのめり込み、博奕も盛んで、博徒になり、その間にも詩作に顕著な進歩が見られるものの、

滑稽+人情本 1835＝18歳：_花街の料亭の娘と結婚しても、遊興は止まず、多くの妾を囲っていたが、

大塩平八郎乱1837＝20歳：

勸進帳初演・1840＝23歳：_頼山陽の教えを受けた憂国の士森田節齋の来訪を受けて、その尊皇論に強く影響され、

_以後、節齋を通じて、長州の志士に、名が知られて行く。

天保改革終・1844＝27歳：_長崎に赴き、海外事情に触れて国事に目覚め、

阿部正弘首座1845＝28歳：

国定忠治疎・1850＝33歳：*高松藩主松平頼胤の兄で藩勤皇派の魁で自らの名をもじって近松佐平と名乗る型破りの粹人頼該に謁して、その知遇を受けるとともに、尊敬し、以後、多くの尊攘派志士と交流して行く。

ペリー来航・1853＝36歳：

_この間、多くの勤皇の志士を匿い、彼らに漢詩を献上していたが、

_長州藩勤皇派と組んで挙兵を計画し、

桜田門外変・1860＝43歳：

旦那博徒のため切った張ったの逸話には乏しいが、_金比羅様の賭場からあがるテラ銭は潤沢で、

生麦事件・・1862＝45歳：

8月18日政変 1863＝46歳：*いよいよ決行と軍費2000両の調達にかかるうち、八月十八日の政変が起こって、チャンスたるべき天皇の大和行幸が中止となって露見し、藩士たちは戦死したり捕らえられるものの、自らはマラリアで病臥していて無事を悔やむうち、自らの子が金比羅大芝居で狼藉を働いたことから“加島屋騒動”が起こるも、決断して衝突を回避、

薩摩藩士密航1865＝48歳：_長州の高杉晋作が紅屋喜助の変名で妾おうのと四国へ逃げてきたのを匿い、脱出させた後、逮捕され、

明治維新・・1868＝51歳：*出獄後、木戸孝允の招きで上京し、征討総督仁和寺宮(彰仁親王)の日誌方として奥羽戦争に従軍したが、柏崎の陣中で、病没した